

郷土の偉人動画から道徳を学ぶ小学校児童の反応とその教育効果

Reactions and their Educational Effects of Children in Elementary School who Learn Morality from the Great Persons Movie of the Home District

池本 有里^{*1}, 山本 耕司^{*1}, 鈴木 直美^{*1}
 Yuri IKEMOTO^{*1}, Kohji YAMAMOTO^{*1}, Naomi Suzuki^{*1}
^{*1} 四国大学
 Shikoku University
 Email: ikemoto@keiei.shikoku-u.ac.jp

あらまし：筆者らは、郷土の偉人 10 名の功績を物語で説明する動画を作成し、郷土の偉人それぞれの生き方から道徳を学ぶ小学校教材を作成した。それらは小学校現場で平成 25 年度から活用され始めている。その実践例による児童の反応や教員の意見をもとに、その教育効果を考察する。

キーワード：郷土の偉人、小学校道徳教育、映像教材、教材データベース、デジタル教材

1. はじめに

徳島県教育委員会は平成 24 年、徳島県小学校道徳教育部会の協力のもと、「子どもたちに伝えたい郷土（徳島）の偉人」と称する事業を実施した。そこでは、徳島県出身の偉人 10 名が、それぞれに成長過程で経験した苦悩や努力、強い意志などを学び、子どもたちが生きる力にする小学校道徳教材を作成するというもので、デジタル教材として筆者らが制作を担当した。そこで注意したところは、

- ① どの教師も的確な授業展開ができるよう、映像を再生しては一時停止して、そこまでの課題に対して子どもたちから意見を引き出すことのできる構成にすること
- ② ストーリー性があり、動画と音声によって臨場感あふれる鑑賞物として、大人も感動とともに楽しんで視聴できるものとする

の二点である。

これら成果物は 2 枚組の DVD に収録し、徳島県内の全小学校へ配布した。各校では AV 機器を用いて、教師の教育経験や専門教科に因らず一律な教育効果が得られるよう指導マニュアルを詳細に作成している。また一方で、教員によってはデジタル教材の活用に長けた人もいることから、必要に応じて総合教育センターの教材 DB からインターネットを通じて教材コンテンツの画像等を受信し、適宜授業をより分かり易く展開できるようにも配慮した。

前回、その教育システムの概要について報告したが、本稿はその教育システムを活用して授業に展開した事例を紹介する。

2. 本取組みの経緯と実践

平成 25 年 2 月に行われた教育再生実行会議において、所謂いじめの問題等への対応で、偉人や歴史上の人物を道徳教材に含めることに留意するとした提言案を手交された首相は、教育再生を果たすにはま

ず、子どもたちが日本に生まれたことを喜びと感じる教育の実現が必要であると肯定している。徳島県ではこの具体を平成 23 年度に既に検討し、平成 24 年度の重要な教育施策に位置づけ、その作業を粛々と進めてきた。

徳島県には、例えば、米国ワシントン大聖堂に肖像が残されている世界三大聖人のひとり賀川豊彦や、幕末から維新にかけて樺太を探検し、日本国領の標しを立てた岡本韋庵など、歴史的に偉業を成した人物を数多く輩出している。しかし、郷土の誇りとなるこれらの人物が、日本国はもとより、地元徳島県においても、ほとんど知られていないのが実情である。

しかし、このような身近にいた郷土の偉人が、どのように苦悩し、不屈の精神をもって偉業を成したかなどを学ぶことは、規範意識を高め、自助努力を肯定することに加え、現在のグローバルな社会において各方面から危惧されている国の競争力の欠如を補えるのではないかと期待する声がある。

このような現状をふまえ、教育の目的を達成するため、徳島県教育委員会では小学校道徳教材として県内の偉人を取り上げ、これを子どもたちに分かりやすく、興味深く伝えることで、自分に置き換えて考えるという動機付けを図る教材を作った。

このようにして作られたこれらの教材を、平成 25 年度から活用した授業が始まっている。

3. 多様な教育現場での活用を目指すシステム

この教材は 10 名の偉人の人生における道徳の授業内容に相応しい部分をクローズアップして、それぞれの別個の学習教材として 10 作品を作成し、2 枚組の DVD に収めている。授業では、DVD が再生できる機器を用いて、テレビで視聴したり、プロジェクターとスピーカーで視聴したりして指導することを想定している。

教師は、再生や一時停止の操作を行いながら、指導の手引の指導例を参考に、「説明」部分を映像で視聴させ、一時停止してその映像に合わせた発問を行う。発問はDVDには収録しておらず、教師自らが行う。指導の手引の「○発問」は、児童や学級の実態に合わせて発問を行うことによって指導でき、中心発問は「◎発問」とし、子どもたちが自分の心に問い掛けて多様な価値観を引き出せ、道徳的価値の追求や把握へと結びつけるねらいがある。

4. 教材の実践と評価

4.1 研究授業での実施事例

徳島市内の小学校で、平成25年6月に、郷土の偉人として岡本韋庵を採り上げた研究授業が行われた。生徒数29名の6年2組のクラスで、担任教師は指導の手引きをもとに指導案を作成し、それに沿って進められた。児童は目を輝かせながら映像を食い入るように見て、教師の質問には積極的に答え、また、しっかり考えて討論していた。



図1 郷土の偉人・岡本韋庵をもとに学習する児童

このクラスを担当した教師は、DBから教材を単にダウンロードするだけでなく、子供たちがよりリアルに意識できるよう、極寒の地をイメージする凍ったラーメンの写真や、怖そうなヒグマの写真を大きく示し、岡本韋庵の当時の気持ちを理解させる工夫をしていたため、児童の反応は驚きや感動など情緒豊かな授業展開がなされていた。

4.2 小学校道徳部会研究大会における実施事例1

平成25年11月、徳島市内の小学校を会場に、徳島県道徳教育研究大会が開催された。公開授業45分、授業研究分科会50分、課題別分科会90分が順次行われ、午後から全体会というスケジュールで進行された。この公開授業は、5年生までが2クラスずつ、6年生が3クラスの計13クラスが同時進行で実施され、郷土の偉人教材を利用した授業は5年2組と6年3組の2クラスであった。

5年2組は、夢に向かって～人生は敗者復活戦ぞ～という題で、蔦文也の野球部監督時代の勝てな

った時代の苦悩から甲子園で活躍するに至った人生訓をもとに授業が展開された。蔦監督のことを聞いたことがあるという児童たちもいて、身近な人の偉業とその影の努力を知り、児童の心が教師の思う以上に高揚し、それを上手く教師が導いて、実に印象深い授業がなされた。映像は、単に活躍している写真だけでなく、否定的なことを言われるシーンやコッソツグランド整備する姿などをイメージ映像で再現し、音声や音楽で感情移入できる内容に作り上げていたため、児童はもちろん、授業参観している研究大会参加の先生たちも感動で涙する姿も見られた。

6年3組の授業は、真理の探求～日本の文化のルーツを求めて～というタイトルで、苦労してアジアを遠く調査して回った文化人類学者の鳥居龍蔵をもとに学習した。難しい内容ではあるが、映像が助けになって、児童ががんばり抜く力の大切さを学べるよう、一人一人に問い掛ける落ち着いた授業展開がなされていた。

一方、授業研究分科会では、自分のよさをはぐくむという主題で、徳島県南部にある木岐小学校6年生を担当する教師が、自分のよさを知り、夢や目標を持って、自分自身を高め、努力を重ねていこうとする意欲を高める授業の実践例を示した。木岐小学校には書家の小坂奇石が書いた書が飾られており、小坂は身近な偉人として児童には馴染みがある。その奇石の苦悩した心情を、道徳的観点からリアルに映像で表現したデジタル教材は、より強く児童の心に響いているということだった。

5. まとめ

この教材は、「徳島県教育振興計画」の基本目標「郷土に誇りを持ち、社会の一員として自立したたくましい人づくり」の達成を図るため、「郷土(徳島)の偉人」の生き方や功績から、子どもたちが、自分の生まれ育った郷土(徳島)を誇りに思い、自己や社会の未来への夢や目標を抱き、理想を求めて主体的に生きていこうとする心を育むことをねらいとしている。利用は始まって1年。まだ活用方法を探っている段階ではあるが、これら10人の郷土の偉人が、子どもたちの心に響く教材として活用されている実績が少しずつ表れてきている。この成果が目に見えるのは、郷土を誇りに思う子どもたちが増え、郷土(徳島)に貢献する人材が育ってから評価されるものであり、長い時間がかかる。

今後の実践例を参考に、教材が示すあきらめない心を持って、授業展開時の成果や課題について、継続して情報を集め、分析していきたいと考えている。

参考文献

- (1) 池本有里, 山本耕司, 鈴木直美, 近藤明子: “郷土の偉人を道徳とした小学校道徳教育における映像教材システムの開発”, 教育システム情報学会第38回全国大会講演論文集 TB2-1.(2013).